

博物館で活躍しよう！

-発達障がいの子どものための学び場づくり-

なにわホネホネ団（てこぼこさんとはくぶつかん）
西澤 真樹子・竹村 望



得意なこと、不得意なことに凸凹があるとされる発達障がい児＝

てこぼこさん

目標「博物館を子どもたちの社会資源に」

① 当初の目標

- ・ 障がいの有無にかかわらず、博物館が全ての子どもたちが楽しみ、学び、参加できる居場所になること。
- ・ 大阪市立自然史博物館には多様なボランティアグループがある。自分の興味のある分野のグループに参加ができ、そこで学び、学校や家庭以外の居場所が作れるようになること。
- ・ 発達障がいのある子どもが自分の強みを生かしてボランティア活動に参加し、自己肯定感を高めること。
- ・ この活動を通して、博物館関係者のみならず地域社会の中で発達障がいの認知を高め、正しい理解を深めていくこと。



目標を実現させるための活動

当事者に対して

博物館の存在に親しんでもらうための仕掛けとして
博物館資料を使った体験イベントを実施し、
 その中で「博物館の社会資源化」に必要な要素を
 具体的に見つけていく



支援者（になる人たち）に対して

博物館に来る子どもたちを迎えるため
関係者（学芸員・事務職員・案内員・
市民ボランティアなど）に研修を行い、
知識と支援のためのスキルを身につける



4つの事業で上記目標の達成を目指しています！

- ①参加メンバーの募集、専門家との協力体制づくり
- ②外部の障害者向けの取組みをしている団体への見学
- ③子どもたちとのつながり作り
- ④サポートしやすい掲示物、活動概要パンフレットの作成

② 実施内容 (9月以降)

当：イベント 4回



9/25精神科
クリニックとの
合同
トークイベント
*オンライン併用

12/4
放課後児童デイ
博物館見学
ツアーと
実習体験



バックヤードツアー@大阪自然史

11/13
放課後児童デイ
訪問型
ワークショップ
実施



12/11
子どもの支援団体
2団体と協働
ワークショップ
実施

支：研修会 1回

12/18
職員向け
人権研修を
共催で実施
*オンライン併用



あくあびあ配信

高槻市立自然博物館「発達障害の理解と支援」



まつぼっくりってなんだろう?@壽光寺

③ 得られた成果

- 拠点の博物館でできなくても仕方ない、と割り切って活発に活動したことで存在が徐々に周知され、府下や他の地域の博物館、支援学級などから相談や声かけをいただくように。
- 仕方なく導入したZoomだったが、オンラインのスキルが上がり、配信型、ハイブリッド型などの研修会を企画実施できるようになった。
- 実際にイベントに参加した障がい児当事者、児童デイ職員などからは高い評価。友の会に入会、遠足に来る、展示や見学への質問をいただくなど事後の動きにつながった。
- これまで自然史博物館との関わりが少なかった福祉系のメンバーの参加（比率5：5）でバランスのいい体制に。また、そうしたメンバーの増加に伴い、地域の福祉系とのネットワークが豊かになった。
- 子どもの支援団体（チャリティーサンタさん）、貧困問題に取り組む地域団体（子どもの居場所まーるさん）との連携イベントを実施したことで、イベントの魅力が高まった。メンバーにとっては「博物館に来られない」とはどういうことか、課題をより深く認識することができた。



④ 残された課題とその原因

【助成期間中の課題】

1：「博物館に集まり博物館の空間に慣れ、共にボランティア活動できる」というゴール

★コロナでサークル活動が再開できておらず、博物館での経験が当事者側も、支援者側も積みにくい

2：より困難を抱えている子どもたち（大人たち）と博物館との障壁

★ワンオペ育児や経済的な理由で、時間がない、手が足りない、見る人がいない、そもそも保護者に博物館などの文化施設を楽しんだ体験がない、結果、連れてくる／行かせるモチベーションにつながらない

【助成期間終了後の課題】

3：博物館業界全体に同様の活動を増やしていくための説得力

★館種による雰囲気の違いや課題を知らない、先行事例の調査不足、研究者とのタッグが組めていない、ネットワークが足りない・または見えていない

4：無料のイメージが強い福祉業界で予算確保しながら活動を継続できるか

★必要な予算の把握ができていない、（助成期間の経験を事業に進化させるとしても）どれ／何が有料化できるのか精査できていない



⑤ 今後の対策

★・あきらめず活動を継続
招待券やチラシを送るなどで目につくようにし続ける
コロナの制限が緩んだタイミングを逃さずイベントを打つ

★・知見を分けてくれる団体と連携を継続、信頼を得る（4月実施予定）。訪問型だけでなく「ご招待」の企画を実施し保護者も楽しませる、まだ「いい感想」しか得られていない可能性もあるので、マイナスの意見も聞ける関係性にまで育てる

★・他の博物館のニーズを発掘、合同の勉強会を開くなど活動を通して可能性を探る、外向けの活動ばかりにならないよう、定期的な勉強会の機会などで知識を共有する時間を作る、複数の博物館の学芸員との共同研究に発展させる、様々な館種でも取り組みやすい関係者向けマニュアルや資料を整える

★・オンラインも含めた研修会を増やす、研修の質を上げる、有料でも話をききたい内容や講師の発掘、調整、実施。
これまで福祉とつながりのなかった博物館業界には研修ニーズがある。有料化あるいは経費折半などで実施できる道を探る。
研修の機会は「興味がある」程度のライトな段階の仲間も増やすことにつながるのでは。

